

仙台高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	0033		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学系 (広瀬キャンパス一般科目)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	日本語を書くトレーニング (ひつじ書房)					
担当教員	武田 拓					
到達目標						
日常生活で使われる言葉を始めとして広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できるようになる。またそれらを用いて、社会的コミュニケーションとして実践できるようになる。さらに日本語で情報を収集・取捨選択・構成する能力や論理的かつ多角的な理解力および柔軟な発想力や思考力、豊かで効果的なコミュニケーション能力や主体的な表現意欲を養うことができるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語習得に意欲的に取り組み、その意味や用法を正しく理解することができる。		日本語習得には取り組み、意味や用法も大体において理解できる。		日本語習得にあまり熱心でなく、意味や用法についても十分には理解できない。	
評価項目2	習得した日本語の意味や用法を様々な使いこなし、社会的コミュニケーションを効果的に実践できる。		習得した日本語の意味や用法をできるだけ活用しながら、社会的コミュニケーションが取れる。		習得した日本語の意味や用法を活用できず、社会的コミュニケーションが取れない。	
評価項目3	日本語で情報を収集・取捨選択・構成する能力や論理的な理解力、および柔軟な発想力や思考力、効果的なコミュニケーション能力や主体的な表現意欲を養うことができる。		日本語で情報を収集・取捨選択・構成する能力を持てるようになり、効果的なコミュニケーション能力や主体的な表現意欲の重要性を理解できる。		日本語で情報を収集・取捨選択・構成する能力を身につけることができず、効果的なコミュニケーション能力や主体的な表現意欲の重要性を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代日本語における仮名遣い・送りがな・常用漢字・句読点・表記符号・ことわざや慣用句・同音同訓異義語・対義語や類義語・待遇表現等の基礎知識を習得し、それらを活用しながら日本語で効果的に書いたり話したりするための技術を学ぶ。					
授業の進め方・方法	受講者を3～4人のグループに分け、テキストの各課にある問題を分担し、解答案を作成してグループごとに発表する。					
注意点	発表に当たっては、事前に解答案を作成する。それを授業担当者が印刷して全受講者に配布する。分担とならなかった課の問題についても、事前にノートに各自解答案を作成して授業に臨むこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		学習目標や方法・評価などについて理解できるようになる。	
		2週	発表1		相手にとって分かりやすい文章を書こうとする態度が身につく。相手にとって分かりやすい文章とはどういうものか理解できるようになる。よりよい表現になるよう、他人とともに検討することができるようになる。	
		3週	発表2			
		4週	発表3			
		5週	発表4			
		6週	発表5			
		7週	発表6			
		8週	発表7			
	2ndQ	9週	発表8			
		10週	発表9			
		11週	発表10			
		12週	発表11			
		13週	発表12			
		14週	発表13			
		15週	発表14			
		16週	まとめ			
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	提出物	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	0	0	50
専門的能力	0	50	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0